八代市長
中村博生　様

令和５年６月２８日
八代市厚生会館のホール再開を求める会
共同代表　丸山久美子
佐藤士郎
磯田節子
甲斐田栄
木田哲次

八代市厚生会館の今後について、結論を急がず、改めて市民とともに考えるよう求める要望書

八代市は４月下旬、八代市厚生会館の閉館及びその後は解体という方針を発表されました。その後、市のホームページや「広報やつしろ」６月号において「厚生会館の今後の方向性」について広報がされています。

それらで示されている八代市厚生会館の高い価値や重要性については、当会がこれまで要望書や提言書などで「先人たちから継承されてきたもの」として繰り返し訴えてきたものでもあり、八代市側がようやくそれらをしっかり整理して表明してくださったと、改めて認識しているところです。

本来、こうした認識を市民と共有し、土台としたうえで、「市民の財産」「街にとっての存在意義」など八代市厚生会館の今後をじっくり議論すべきだと考えます。しかしながら、それがないまま「閉館」「解体」の発表がされ、約２カ月が経ちます。

その発表を受けて当会は６月１１日、緊急シンポジウムを開催し、市民ら約１６０人もの参加がありました。厚生会館の内外部を実際に視察した建築の専門家から、約２０億円とされる改修費について「再開に必要なのは約７億円で、残りは『この際だから実施しよう』というグレードアップ費用」、法定耐用年数６０年を超えるとされることについて「実際の物理的な耐用年数はまだ数十年あり、十分に使い続けることが可能」などの指摘があり、市の劣化度調査では実は「大規模改修は必要ない」とされていることも明らかになりました。また、ホールとしての採算性向上の可能性、「厚生会館の機能移転」なる問題などについても、市民目線での意見が次々と出ました。「閉館」「解体」について多くの市民が依然として強い疑問を持っているだけでなく、建築

の専門家らの指摘によって市の判断の根拠が揺らいでいる中、厚生会館の今後について、やはり改めて立ち止まって考えるべきではないでしょうか。

シンポジウム会場で配布したアンケートには「閉鎖が発表された厚生会館の現状について、あなたの思いをお書きください」という質問項目があり、この項目だけでも約９０人が回答を寄せてくださり、「八代の未来の子どもに残してください」といった思いが数多く綴られています。この質問項目の全回答を添付しますので、ぜひとも市民の思いをくみ取っていただければ、と思います。

そのうえで、以下の２点を要望いたします。

１．八代市厚生会館の今後について、結論を急がずに時間をかけて検討すること
２．市民とともに八代市厚生会館の今後を考える場を作ること

なお、八代市が今年１月に発表したＪＲ 新八代駅周辺再開発構想にある「文化コンベンションセンター（仮称）」について、一部で当会の考えについて誤解されている可能性を感じますので、付言させていただきます。

現時点において、「厚生会館の機能を移転する」とされる「文化コンベンションセンター（仮称）」についてはまだ具体像が公表されておらず、この複合施設建設の是非について判断するのは困難です。当会としても、具体像があきらかになり、この施設を建設することが市民の「創造力向上」や「市全体の経済的な発展」に繋がり、次世代の負担にならないことを市民が納得できる施設であるならば、その整備に反対する理由はありません。

当会は、あくまでも「今の中心市街地にある厚生会館を残してほしい。ホールとして使わせてほしい」ということを求めているものです。